

かんきつ日焼け症軽減技術の検討

近年、温暖化や異常気象などによりかんきつの日焼け症が増加しており、症状によっては果皮の硬化や果実の変形、果肉のす上がり等が発生し、正品率低下の要因の一つとなっている。

【供試品種】

日南1号
せとか
愛媛果試第48号

【試験区】

(1) 炭酸カルシウム剤
(2) クラフトテープ
(3) 無処理



炭酸カルシウム剤



クラフトテープ

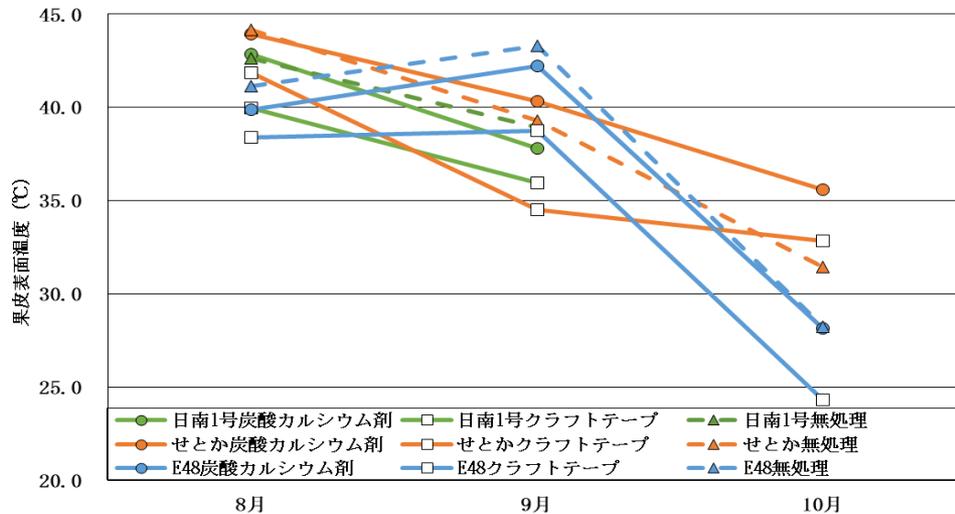


図1 日焼け止め資材の施用と果皮表面温度

表1 日焼け軽減資材施用と日焼け指数^{※1}

試験区	日南1号	せとか	E48
炭酸カルシウム剤	6.3 a	4.6 a	6.7 ab
クラフトテープ	0.0 b	0.0 b	0.0 b
無処理	8.9 a	4.4 a	21.9 a
有意性 ^{※2}	*	*	*

※1) 日焼け指数 = ((無×0+軽×1+中×2+甚×3)/調査果数×3)×100、10果/区調査

※2) Tukey5%水準で異符号間に有意差有り(n=3)

日南1号、せとか：令和4年9月7日、E48：10月18日調査

表2 日焼け軽減資材の施用と糖度(° Brix)

試験区	日南1号	せとか	E48
炭酸カルシウム剤	9.4 a	14.7 ab	14.4
クラフトテープ	8.3 b	14.4 b	14.8
無処理	10.1 c	15.1 a	15.1
有意性 [※]	*	*	ns

※Tukey5%水準で異符号間に有意差有り

日南1号：令和4年9月28日、せとか：令和5年2月20日、E48：令和5年3月1日調査

クラフトテープの施用で果皮表面温度が低く、日焼けの発生が少なかったが、糖度が低い傾向がみられた。

炭酸カルシウム剤の施用により、果実品質を維持しながら日焼けの発生を抑制する傾向がみられたが、引き続き調査する必要がある。